

1. 設計条件の確認

事項

要点

備考

1-3 土質強度定数

【確認事項】
 ・ すべり面の土質強度定数は逆算法により求めた値を採用する。
 ・ 算定の結果、大滝地区においては $C=25\text{kN/m}$ 、 $\phi=17.4^\circ$ 、迫地区においては $C=25\text{kN/m}$ 、 $\phi=29.2^\circ$ とする。

安定解析に用いる土質強度定数は逆算法により算定する。すべり面の粘着力は地すべり層厚との関係から求められるが、上限値は 25kN/m 程度とされている。(出典：貯水池周辺の地すべり調査と対策)
 大滝地区および迫地区については層厚がそれぞれ約 60m および約 40m であることから、粘着力は上限値である 25kN/m を採用した。

地すべりの層厚と
地すべり面の粘着力

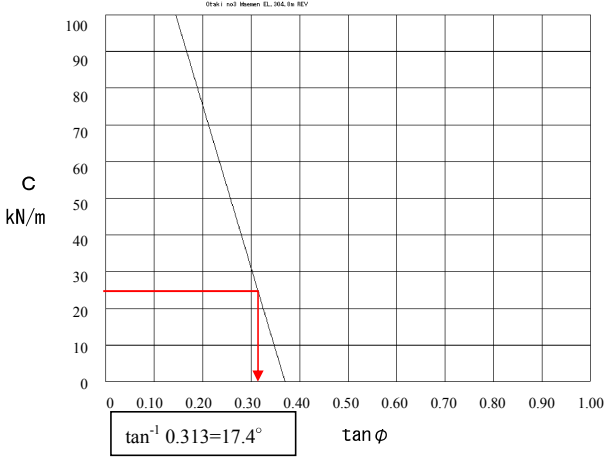
地すべりの垂直層厚 (m)	粘着力 c' (tf/m ²)
5	0.5
10	1.0
15	1.5
20	2.0
25	2.5

表 1-11 土質強度定数

項目	大滝地区	迫地区
・ 解析代表断面	No.3 測線 (前面すべり)	No.3' 測線 (下部すべり)
・ すべり面の土質強度定数逆算の水位条件	経験最高水位 EL.304.8m において、 $R/D=1.0$	貯水前(水位のない状態)において、 $R/D=1.0$
・ すべり面の土質強度定数	$C=25\text{kN/m}$ 、 $\phi=17.4^\circ$	$C=25\text{kN/m}$ 、 $\phi=29.2^\circ$

出典「貯水池周辺の地すべり調査と対策」

【大滝地区 C-φ 図】



【迫地区 C-φ 図】

